

さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を普段着のまま紹介するシリーズ



はだしてとびだせ！ おひさまっこ おひさま倉賀野保育園大運動会 (2024.10.19 於・倉賀野小学校)



全体でパワー爆発！ 成長・発達を確かめ合う運動会！

2024年10月19日（土）、おひさま倉賀野保育園の大運動会の見学に行ってきました。

番組は、1番の入場・開会宣言・うたから始まって、20番のフィナーレまでです。1番から3番までは全員参加で、うた・リズム・かけっこが展開されます。力いっぱい動き回る、《疲れを知らない》子どもたちの姿は圧巻です。一人ひとりの子どもが輝いていました。この後、0歳児～5歳児までの発達段階に応じた番組が続きます。どの番組にも引き込まれる迫力があり、躍動感があります。また、すべての子どもたちに対し、暖かい声援が感動的です。子どもたち・保護者・卒園生・園の一体感が印象的でした。子どもたちも全員参加でした。

印象に残った番組を中心に、倉賀野保育園の《育ちと学び》に迫ってみたいと思います。

おひさま倉賀野保育園って？

おひさま倉賀野保育園は、0歳産休明けからの保育と婦人が働き続けることを願う人達によってつくられた共同保育所です。「児童福祉」「子どもの権利条約」の理念に基づき、子どもに最善の保育環境を保障することに努めながら、これまでに以下のような歩みを進めてきました。

- 1970年 おひさま無認可保育園設立
- 1971年 社会福祉法人おひさま福祉会認可（定員60名）
- 1978年 定員120名に増員
- 2000年 子育て支援センター設立
- 2015年 定員130名に増員

保育目標

- 丈夫な体の基をつくる。
- 自然への畏敬、人間への尊重を、自然を教材にした遊びを通して培う。
- 集団保育と生活体験を通して、豊かな感性、認識、思考力を高め就学へとつなげる。

保育士さんの研修

保育目標を達成するために、毎週の自由大学、音楽教育の会の研修、月1回の歌とリズムの研修会、全国と県の保育問題研究協議会、保育センターの研修を積み重ねています。

まずは全員でリズム

0歳児から5歳児までそれぞれがリズムを楽しみます。園では、成長・発達に大切なリズムを大事にしているとのこと。



子どもとの対話を大事に！

保育士さんたちは、常に子どもたちとの対話を大事にしています。運動会の最中でも子どもたちに声をかけています。

■あひるぐみ(0歳児)

お山におかって

しゅっぱつしんこう=3

4月は8人だったあひるぐみが今は14人（運動会時点）になり、大人や友達と関わって遊ぶことが楽しくなっているとのこと。板の斜面を登る姿はなかなか力強いものです。確かな成長を感じさせます。



■いすぐみ(1歳児)

みーつけた！

かくれんぼが大好きな1歳児。ドキドキしながら見つけてもらうのを待つ子どもたち。散歩先でもいいもの探しが得意な1歳児とのこと。

■うさぎぐみ(2歳児)

おおきなやま であー！！！！

(紙芝居「たべられたやまんば」より)



山へ花取りに出かけた山寺の小僧が、やまんばに捕まりべんじょの神様に助けられ、3枚の

お札を授かり、そのお札を使って山や川や火をつくって逃げるお話。子どもたちはハラハラドキドキの思いをしながら逃げるスリル味わっているのでしょう。子どもたちの大好きなお話です。



■くまぐみ(3歳児) まめけのまめけの金角やーい!

(紙芝居「そんごくうだいかつやく」より)

子どもたちは、紙芝居でお馴染みの大好きな孫悟空になりきって修行に挑戦です。写真はぶらさがりの修行。普段から、ワクワクしながら金角との闘いなど色々な修行を楽しむ子どもたち。運動会はその延長です。この後、後半に「そんごくうしゅぎょうのまき」という親子の番組が続きます。親子そろっての微笑ましい修行です。

清水房江園長談・・・孫悟空から手紙が届き、悟空が頭にはめている「きんこじ」をもらい、うれしくて一日中それをはめているかわいい子どもたちです。



頭に「きんこじ」をはめて

■ぞうぐみ(4歳児) お宝めざして、エイ・エイ・オー!

(絵本「ダンプえんちょうやつつけた」より)
親子のお宝をといもどせ! に続く

色々な海賊の本に出会い、ハラハラドキドキしながら冒険を楽しむ普段の子どもたち。

運動会では、宝を探す冒険の旅へ。宝を探したところで退場。そして、後半の番組「お宝をとりもどせ!」で、親子のバトルが展開されます。

2回やられると死にますが、味方がタッチすると生き返るというルール。結末は子どもが勝って宝を取りもどします。親子で冒険の世界を楽しみます。どの年齢も、親子での番組がセットされているのも特徴です。親が見つからない子どももいますが、ご愛嬌です。

■らいおんぐみ(5歳児)



圧巻のらいおんぐみ!!

◆竹のぼり

◆とんで!まわって!1・2・3!!

◆アンニョンハセヨ

まず、「竹のぼり」。すべりながらも力強く登る姿は、さすが年長です。若干の差はありますが、それぞれが力を尽くして登る姿は圧巻です。

会場の保護者の皆さんや保育士さんからは、割れんばかりの声援が送られます。見学する我々も自然と熱くなります。



「とんで！まわって！1・2・3！！」は、揃いの藍染シャツを着て、跳び箱・鉄棒・雲梯に挑戦する番組です。それぞれの演技が、成長・発達の跡を伺わせるものです。逆上がりに何度も挑戦する子どもの姿は感動的でした。



「アンニョンハセヨ」では、扇のおどり、頭で紐をまわすサンモ、ソゴ（小鼓）など、朝鮮の踊りが披露されました。日常からモンゴルや朝鮮の音楽や遊びを通じ、音をよく聞いてリズムに乗って表現したり踊ったりする保育も行われています。

扇のおどりは、表紙の写真をご覧ください。



ソゴ（小鼓）

▲保護者の感想より▲

運動会お疲れ様でした。登園時に逆上がりの練習をしている様子を見て、「おいしい！もう少し。がんばれー！」と思っていた子たちが、くると成功したのを見て鳥肌が立ちました。自分たちの努力は勿論、お互いに励まし合ったり、先生方も一緒に毎日たくさんたくさん練習して下さった成果だと思います。みんなで喜びも悔しさも分かち合って、また一つ思い出が増え、子どもたちの本気も、大人の本気も共有させてもらえて嬉しいです。リレーもすごかった！感動した！ありがとうございました。

（5歳児の母）

見学・取材を終えて

素晴らしい運動会でした。保育士さんが、歌、絵本・紙芝居、描画、リズム、散歩、運動会の練習や行事などを通じて、子どもたちに常に寄り添い、対話をし、感動を共有し、成長・発達を喜び合い、共に行事を創ってきたのだ、ということが伝わってきました。保育目標が見事花開いているという印象です。

また保育士さんは、連絡ノート、クラス懇談会、行事、署名、お迎え時の対話などを通じて、保護者との結びつきもつくっています。運動会で感じた全体の響き合いは、まさに子ども・保護者・園の濃密な人間関係の賜物です。

ぐんま教育文化フォーラムの機関誌「育ちと学び」は、県内の教育現場やさまざまな市民文化活動などの取材を通じて、子ども・若者の姿や、教育実践、市民の活動などをいきいきと紹介することが目標です。

この運動会に出会えたお陰で、この目標に大きく近づけたと思います。このような生き生きとした子どもたちが羽ばたいてゆく未来を、平和で自由なものにしたいものです。ご多忙中、取材にお付き合い頂いた園長先生に感謝いたします。

（取材：瀧口典子 平井敏久 写真：園提供）